

校長の自慢 『5人の教志セミナー生』

大阪教志セミナーは、教師を目指す学生を対象に教師として求められる資質や基礎的な指導力を育むことを目的に平成20年から実施されています。今年度で6年目の事業です。なお、昨年、このセミナー修了者は、翌年の「大阪府公立学校教員採用試験選考テスト」において一次試験免除の対象となります。今年も多数の候補者が応募し、その中から243名が選考されたようです。高校教員希望者は数十名ですが、その中の5名の学生が本校を希望し、実地実習場所となりました。つまり、教育実習の前年の実地訓練とも言えます。

本校には、地歴・公民科は2人、保健体育科も2人、そして国語科は1人の合計5名が来てくれています。授業見学はもちろん、朝は正門での登校指導や朝の出欠確認にも参加していますし、夕方は、下校指導にも取り組んでいます。生徒にとっても、一番年齢の近い存在としてセミナー生は良き相談相手にも、またメンターにもなってくれています。



***地歴・公民科** 2人とも積極的に生徒への「声掛け」もおこない、生徒との距離をほどよく推し量っています。チーム・ティーチングにも参加し、練習のために教壇にも立つてもらったこともありました。授業プリントの作り方なども先輩教員から指導され、自分の興味・関心ではなく、生徒に如何に興味・関心を喚起するかを根底にしたプリント作成について学びました。



***保健体育科** 生徒たちと同じように走り、体操し、その中でコーチングする難しさを感じています。また、個々の生徒の特性を担任から教えてもらい、対応の方法についても会得しようとしています。体育の授業は、授業までの準備がポイントです。準備を手伝いながら、授業の目標を理解できるようにしています。また授業中は参加生徒の動きに目を向けるだけではなく、見学生徒への声を掛けにより次回の授業参加につながることも体験したと語っていました。



***国語科** 生徒の声を上手に傾聴できる「聞き上手」です。先日は、近隣中学への小論文出前授業にも同行し、高校生と中学生の発達の違いを肌で感じたようです。本校生を「素直でかわいい」と心から思ってくれているからこそ、生徒も心を開いてくれているようです。

実習の最終日には、セミナー生と振り返りをすることにしています。実習を通じて、もっとその教科を掘り下げて研究しなければ、生徒に学ぶ喜びを伝えられないと痛感したと聞き、この実習の意義を感じました。セミナー生が本校で得た経験は貴重なものです。それを糧に彼ら5人には大阪の素晴らしい教員を目指してもらいたいと思っています。それが、本校でセミナー生に関わった教員の願いでもあります。

